

＜学校教育（基礎教育）分野の点検・評価＞

学校教育（基礎教育）分野については、大きく学校教育課・指導室事業と給食センター事業に分けて点検・評価しました。

I 学校教育課・指導室事業

学校教育課・指導室事業については、次に掲げる項目について、目標・取組概要、自己評価、今後の課題と対応の方向性を項目別にまとめるとともに、市民の方々等から頂いた主な意見を掲載しました。

1 教育環境の整備・充実

児童生徒が快適な学校環境のもとで学習できるようにするとともに、登下校時の安全確保や不審者侵入に対する対応等、学校の危機管理体制の確立を図ります。

項 目	1 高機能かつ多機能で変化に対応し得る弾力的な施設環境の整備
目標・取組概要	教育内容・教育方法などに対応した多様な学習内容・学習形態やコンピュータその他の高度な教育機器の利用などを可能とする高機能かつ多様な学習環境を確保します。
自己評価	① 平成26年度から、各小中学校に指導者用タブレット端末を教員相当台数（合計369台）配備し、新たな学習形態の実現を図っています。 ② ①のタブレット端末を有効に活用するため、新たに電子黒板を全校の普通教室に配備（合計220台）するとともに、小学校に教科書準拠の指導用デジタル教科書を整備し、分かり易い授業による学習意欲と確かな学力の向上を目指した情報教育環境の充実を図ることができました。
今後の課題と対応の方向性	① 今後、学習者用タブレット端末や中学校の指導者用デジタル教材の整備を計画すると同時に、厳しい財政状況下、全ての事業において経費削減に努める必要があります。 ② 整備した情報教育機器を有効に利活用するための方策を講じていく必要があります。

項 目	2 健康的かつ安全で豊かな施設環境の確保
目標・取組概要	児童生徒の学習及び生活の場として良好な環境を確保するとともに、障がいのある児童生徒にも安全でゆとりを持って学校生活が送れるよう配慮した施設整備に努めます。
自己評価	① 平成26、27、28年度の3箇年で小学校6校、中学校3校のトイレ洋式化工事を予定しており、平成27年度は高野小学校、松ヶ丘小学校及び御所ヶ丘中学校のトイレ改修を行い、児童生徒の学校生活における快適な環境づくりができました。 ② 松並土地地区画整理事業に伴う児童数の増加に対応するため、平

	成 2 6, 2 7 年度の継続事業で、黒内小学校の校舎増築（1 2 教室、エレベーター、昇降口）工事及び既存校舎の改修工事（トイレ改修を含む）を実施しました。 ③ 建築後 3 0 年以上経過し老朽化した愛宕中学校について、長寿命化と施設改善を図り、平成 2 7 年度に大規模改修工事（トイレ改修を含む）及びエレベーター棟増築工事に着手しました（平成 2 8 年度繰越し工事）。
今後の課題と対応の方向性	① 小中学校のトイレ改修事業は、平成 2 8 年度に予定している工事（大井沢小学校、けやき台中学校）の実施で、1 3 校全ての学校の便器の洋式化と床の乾式化が完了します。 ② 松並土地区画整理事業地内で戸建て及び集合住宅等の販売が計画され、住宅地への入居に伴って児童生徒の増加が見込まれるため、通学対象の学校における教室不足等への対応を引き続き行う必要があります。 ③ 校舎や屋内運動場（体育館）等の学校施設については、築 3 0 年が経過し老朽化している施設があり、計画的な大規模改修が必要で、平成 2 8 年度は、郷州小学校体育館の改修を予定しています。 ④ 小中学校の耐震化については、平成 2 4 年度までに必要な工事を完了しており、校舎及び体育館の耐震化率は 1 0 0 % です。平成 2 8 年度は、愛宕中学校及び御所ヶ丘中学校の格技場の天井耐震化工事を予定しています。

項 目	3 通学路の安全点検と危機管理体制の強化
目標・取組概要	安全で安定した教育環境の確保のため、通学路の安全点検、災害時引渡し訓練等危機管理体制の強化を図ります。
自己評価	① 通学路の安全点検は平成 2 4 年度から毎年実施しており、警察署、道路関係者及び学校関係者と連携した現地での安全点検と点検結果を基に、道路の路面標示の書き直し、通学補助員配置見直し等対策を行うことで登下校時の安全確保が図られました。 ② 9 月 1 日に災害時の小中学校児童生徒引渡し訓練を実施し、危機管理体制の強化を図ることができました。
今後の課題と対応の方向性	① 児童生徒の登下校時の交通事故防止のために、警察や道路関係者及び学校・教育委員会がより連携を密にして安全対策を講じていくとともに、児童生徒への交通安全指導の強化を図る必要があります。 ② 不審者情報が度々寄せられている状況にあります。引き続き、保護者や地域住民の協力を得ながら、登下校時の防犯対策を講じていく必要があります。

＜外部の方々から頂いた意見＞

- ＊ トイレ改修事業については、工事が完了した各学校の先生、児童生徒及び保護者から大変喜ばれています。
- ＊ 全小中学校の各普通教室に整備した電子黒板については、他学級との調整や移動をする必要なくなり、利活用しやすくなったとの声を先生方から頂いています。
- ＊ 児童生徒の登下校時の安全確保のため、通学路となっている道路で、交通事故発生の危険度が高い交差点への信号機の設置及び道路の拡幅や歩道の整備が求められています。

2 学校教育プラン

新しい時代をたくましく生きぬく人づくりを目指し、以下の学校教育プランを推進します。

〔1〕 ステップアッププラン（確かな学力の育成）

児童生徒に確かな学力を身に付けさせることは、学校教育にとって最重要課題です。確かな学力の育成のためには、児童生徒が自ら学習する喜びを実感して、学び続けることが大切です。

学校は、学習指導要領に基づき、基礎的な知識及び技能を習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育み、主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、地域や子どもの実態に応じた特色ある学校づくりを積極的に進めます。

項 目	1 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と指導法の工夫改善
目標・取組概要	① 小学校高学年による教科担任制を推進します。 ② 基礎的・基本的な知識・技能の育成では、体験的な理解や繰り返し学習を重視します。 ③ 小学校1・2年生と中学校1年生を対象に学習支援ティーチャーを配置します。 ④ 少人数加配教員及び学習支援ティーチャー・社会人TT等の積極的な活用を図ります。 ⑤ 市基礎学力統一テストの実施（小学校1・2年生）や学校改善プランを活用し、授業改善に努めます。 ⑥ 定着度を数値目標化し、説明責任を果たすことができるようにします。 ⑦ 学校行事の厳選を図り、計画的に授業時間が確保できるようにします。 ⑧ 家庭学習の手引きを活用し、家庭学習の定着と習慣化を図ります。
自己評価	① 確かな学力の定着については、「茨城県学力診断のためのテスト」の結果を見ると、市全体としては、小学校3年生から中学校3年生まで全ての学年が県平均を上回り、十分に定着してきてい

	ると思われます。平成26年度小学校6年生は、県平均を16.7ポイント上回り、翌平成27年度中学1年生の状況は県平均と比較して28.4ポイント上回っています。もちろん個人差があるので、身に付いていない児童生徒に対しては、一人一人の課題を明確にして個別に指導していく必要があります。 ※ 県学力診断テスト正答率の推移（数字は各教科の正答率を合計して記入） <table><tr><th colspan="3">区 分</th><th>H 2 5</th><th>H 2 6</th><th>H 2 7</th></tr><tr><td rowspan="7">県平均</td><td rowspan="4">小学校</td><td>3 年</td><td>298.8</td><td>315.5</td><td>327.4</td></tr><tr><td>4 年</td><td>292.3</td><td>314.6</td><td>320.2</td></tr><tr><td>5 年</td><td>282.6</td><td>302.6</td><td>298.2</td></tr><tr><td>6 年</td><td>292.3</td><td>315.5</td><td>304.5</td></tr><tr><td rowspan="3">中学校</td><td>1 年</td><td>315.5</td><td>361.3</td><td>348.9</td></tr><tr><td>2 年</td><td>294.0</td><td>333.2</td><td>329.4</td></tr><tr><td>3 年</td><td>277.3</td><td>300.8</td><td>327.8</td></tr></table> 注）小学校は4教科、中学校は5教科で実施 ② 守谷小学校、郷州小学校に理科専任教員を配置し、専門的な立場からの指導により児童の理科への関心が高まりました。 ③ 小学校1・2年生を対象に市基礎学力統一テストを実施し、児童の実態を把握しました。基本的な知識・技能はおおむね定着しています。目標点数に到達しない児童には、昼休みや放課後を利用して繰り返し指導を行うことが大変有効でした。 ④ 平成25年度に配置基準を拡充（小1で26人以上）した学習支援ティーチャーを小学校に34名、中学校に9名配置，社会人TTを1名配置し（大野小学校），児童生徒の生活習慣や学習習慣の確立と学力向上を図ることができました。 【学習支援ティーチャー配置校一覧】 大井沢小，高野小，守谷小，黒内小，御所ヶ丘小，郷州小，松前台小，松ヶ丘小，守谷中，愛宕中，御所ヶ丘中，けやき台中 ⑤ 小中一貫教育を推進していく中で，意識化と共有化をキーワードにして，「学びのプラン」における学習スキルを意識した授業改善に取り組んできました。各校において有効な手立てを市内の小中学校で共有し，実践してきました。	区 分			H 2 5	H 2 6	H 2 7	県平均	小学校	3 年	298.8	315.5	327.4	4 年	292.3	314.6	320.2	5 年	282.6	302.6	298.2	6 年	292.3	315.5	304.5	中学校	1 年	315.5	361.3	348.9	2 年	294.0	333.2	329.4	3 年	277.3	300.8	327.8
区 分			H 2 5	H 2 6	H 2 7																																	
県平均	小学校	3 年	298.8	315.5	327.4																																	
		4 年	292.3	314.6	320.2																																	
		5 年	282.6	302.6	298.2																																	
		6 年	292.3	315.5	304.5																																	
	中学校	1 年	315.5	361.3	348.9																																	
		2 年	294.0	333.2	329.4																																	
		3 年	277.3	300.8	327.8																																	
今後の課題と対応の方向性	① 「茨城県学力診断のためのテスト」の結果は，市全体としては良好でした。反面，個人差への対応も課題となりました。各学校では，結果を十分に分析し，教育課程の編成を工夫し，放課後の時間を作ったり長期休業を利用したりして，個に対応するための																																					

	補充学習を行っていきます。 ② 基礎的・基本的な知識、技能の確実な定着のためにも、発達段階に応じた学習スキルの定着や家庭学習の習慣化が不可欠です。「学びのプラン」と「家庭学習のてびき」の有効活用を継続し、生活・学習スキルの定着を図っていきます。
--	--

項 目	2 思考力、判断力、表現力の育成と学習意欲の向上
目標・取組概要	① 興味・関心を高める学習素材の開発や学校図書館利用の工夫を図ります。 ② 習得した知識・技能を活用する学習活動を充実させ、思考力・判断力・表現力等を育みます。
自己評価	平成27年度は、市の指定を受けた2校が研究発表会を行い、2校ともに大きな成果を上げることができました。 ① 大井沢小学校では、「意欲的に学習に取り組み『分かる喜び』を味わう児童の育成」をテーマに、ユニバーサルデザインを取り入れ、児童にとって「分かる」授業づくりに取り組みました。 ② 松ヶ丘小学校では、「自らの考えをもち、豊かに表現できる児童の育成」をテーマに、言語活動の充実を通して、伝え合う力の育成を図りました。
今後の課題と対応の方向性	① 大井沢小学校での研究では、身に付けさせたい力を焦点化することで、児童の主体的な学習、教員の指導力の向上や授業改善という成果が見られました。今回は、国語と算数に特化して研究が推進されましたが、授業や他の教科に生かしていきます。 ② 松ヶ丘小学校の研究では、児童の読む力や教員の国語科における指導力の向上という成果が見られました。今回は、国語科において「読むこと」に特化して研究が推進されましたが、身に付けた力を、他の教科に生かしていきます。

項 目	3 個に応じた教育の積極的な推進
目標・取組概要	① 定着度に応じて、発展的な学習や補充的な学習を進めます。 ② 少人数やT Tによる授業、習熟度別の授業等を積極的に展開し、個に応じた教育の充実を図ります。
自己評価	各学校において、少人数加配教員（小学校9人、中学校7人）や学習支援ティーチャーを積極的に活用し、少人数やT Tによる授業、習熟度や課題別の授業等を展開しながら発展的な学習や補充的な学習を進めるなど、個に応じた指導の充実が図られました。
今後の課題と対応の方向性	学習支援ティーチャーの配置により、学習習慣の確立を含めたきめ細かな個への指導の充実が図られましたが、今後も質の高い学習支援ティーチャーの確保に努めていく必要があります。

項 目	4 特別支援教育の充実
目標・取組概要	① 校内支援体制を確立し、障がいのある児童生徒に対して一人一人の教育的ニーズに応じた個別の支援計画・指導計画を作成し、指導に当たります。 ② LD（学習障がい）、ADHD（注意欠陥多動性障がい）等の児童生徒への特別支援学級の弾力的運用を推進します。
自己評価	特別支援教育については、特別支援学級担当者会議や教育支援会議等を通して学校間の連携を図ることができました。 ① 平成27年度は、文部科学省からの指定を受けなかったが、御所ヶ丘中学校区において、インクルーシブ教育システム構築のために域内の教育資源の組合せにより、域内の全ての子ども一人一人の教育的ニーズに応える仕組みを構築しました。 ② LD、ADHD等の児童については、介護補助員（小学校39人、中学校3人）等を配置し、普通学級と特別支援学級との相互学習を行うなど、弾力的な運用をしました。 【配置校一覧】 大井沢小、高野小、守谷小、黒内小、御所ヶ丘小、郷州小、松前台小、松ヶ丘小、御所ヶ丘中、けやき台中 ③ 個別の教育支援計画・指導計画を市内統一形式にし、異校間（小小、小中、中中）の引継ぎが同一歩調で行えるようにしました。
今後の課題と対応の方向性	① 特別な支援が必要な幼児、児童生徒に対し、障がいの程度等を検査し、適切な支援のあり方を保護者や学校等にアドバイスできる教育相談員を配置していることで、幼稚園・保育所・療育教室と小学校との円滑な接続が図られましたが、今後はそれらの児童生徒に対して学校訪問をし、現状の把握をしていきます。 ② インクルーシブ教育については、今後は、保・幼・小・中・高等学校を通して一貫した支援を実施することが大切になります。そのために、学校長が十分なリーダーシップを発揮し、教職員の専門性向上のための研修体制等を充実させること、域内の教育資源との連絡調整をする役割を果たす特別支援教育コーディネーターを育成すること、域内の教育資源との継続した連携体制の構築及び効果的な事例を蓄積・共有することが必要です。

項 目	5 読書活動の積極的推進
目標・取組概要	① 朝の読書タイムやブックトーク等、本に親しむ時間を提供します。 ② 「みんなに進めたい一冊の本」事業への積極的参加を行います。 ③ 「守谷市子ども読書活動推進計画」を活用し、読書活動の推進を図ります。

自己評価	「みんなにすすめたい一冊の本」事業への積極的な参加を促し、読書の習慣化を図りました。小学校で50冊以上読んだ児童の割合は88.5%で、中学校で30冊以上読んだ割合は12.1%でした。						
	※ 「みんなにすすめたい一冊の本」推進事業での読書割合の推移						
	単位：%						
	区 分	小学校			中学校		
		H25	H26	H27	H25	H26	H27
県平均	65.4	69.2	71.4	16.9	16.2	18.5	
守谷市	72.4	71.1	88.5	10.5	10.8	12.1	
今後の課題と対応の方向性	「みんなにすすめたい一冊の本」事業では、小学校では県の平均を上回りましたが、中学校ではまだ県の平均を下回っているため、中学校での読書意欲の向上に向けた取組を、司書教諭と連携して推進していきます。						

＜外部の方々から頂いた意見＞

- 1 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と指導法の工夫改善について
 - ＊ 教科担任制をもっと広げてほしい。子どもは、理科の授業を楽しみにしている。
 - ＊ 調査やアンケート結果から、学校の取組の成果が出ているので、引き続き児童の学力を伸ばしてほしい。
 - ＊ いろいろな行事が多すぎるような気がします。もう少し減らして授業にあてて全体的に底上げが必要と考えます。
 - ＊ 月例テストなどで基礎学力が定着するように配慮されていて、とても良い取組だと思う。これからも続けてほしい。
 - ＊ 守谷市の独自性（電子教科書）を取り入れたことによって、他の市と比べてどんな効果が上がったかなどの結果が知りたい。守谷の取組や学校としての効果に期待している。
 - ＊ 発表の仕方がとてもよい。特に、教師による指名のみではなく、子ども同士が指名するなど、工夫している姿には感心する。しかし、発表がはっきりしない場面があるのが残念である。
 - ＊ 「学びのスキル」の定着が図られている。
 - ＊ 先生達の努力が感じられた。互いの授業を参観しさらに指導力をアップしてほしい。
- 2 思考力、判断力、表現力の育成と学習意欲の向上について
 - ＊ 知識をもとによく考え、自分なりの考えをもつことができる人間を育てる工夫をしてほしい。
 - ＊ 基礎学力を付けるのと同時に、その活用能力も身に付けさせてほしい。
 - ＊ 条件に合わせて書くことは、社会に出て必要なこと。研修を通して授業力の向上を図ってほしい。

- * 発展的な問題にも取り組めるようにし、一人一人を更に伸ばすことも大切にしてほしい。
- * 児童の表現力が高い。
- * 日頃の学習への抵抗感をなくし、意欲を持たせる観点からも、自主学習や部活動単位の補充学習は大切であり継続してほしい。「やらされる学習」ではなく、「自分から意欲的に取り組む学習」の充実につながる指導を展開してほしい。
- * 学力の高い状態が伺われる。生徒が自信につなげ、更なるステップアップを図ることを望む。書くことやコミュニケーションを盛り込んだ活動を充実させてほしい。「書く力」「話す力」それらを「まとめる力」は、社会人になっても大変重要かつ欠かせないものである。

3 個に応じた教育の積極的な推進について

- * 3年生以上も副担任制を実施し、より目の届く教育をしていただけると安心します。
- * 全学年、概ね目標を達成しているようだが、目標値に達しない児童へは、引き続き個別指導の充実をしてほしい。
- * 学年が上がるほど個人差は大きくなる。今後も、個に応じた指導を心がけてほしい。
- * 複数の教師によるTTが行われ、手厚い指導が行われている。
- * 1年の国語・数学・理科・社会・英語、2年の国語・数学・社会、複数の教員で指導に当たっているのは素晴らしい。

4 特別支援教育の充実

- * ユニバーサルデザインを取り入れた授業は、今後も継続してほしい。
- * 個への合理的な配慮は課題を抱える生徒だけでなく、学力の高い生徒へも手立てをとっていくことを忘れないでほしい。

5 読書活動の積極的推進

- * 読書の習慣も昨年度より定着しているので、継続してほしい。
- * ボランティアや保護者の方の協力がありがたい。読み聞かせの講習会も行っていると聞いた。朝読書の時間を特色として今後も大事にしてほしい。
- * 教育の目標は、人間としての自立で、学習の原点は読書であると思う。一人一人に自信を持たせることが、独立・社会性獲得の源である。

〔2〕 ハートフォーヒューマンプラン（豊かな心をはぐくむ教育の推進）

近年、規範意識や道徳性の低下が叫ばれています。こうした問題の解決のため、他人を思いやる心や倫理観、責任感等の育成を図り、心豊かな児童生徒を育てます。

項 目	1 基本的行動様式の徹底指導と基本的生活習慣の確立
目標・取組概要	① 児童生徒の生活全体を見直し、全教育活動を通して「規範意識」を育て、基本的行動様式の確立を図ります。 ② 「早寝、早起き、朝ごはん」運動を推進し、望ましい基本的生活習慣の定着と生活リズムの向上を図ります。 ③ エンゼルサポートプランを活用し、発達段階に応じた指導を行います。

	④ 相手を思いやることの大切さに気付き、実践へとつなげていくことができるよう、冊子『わたしたちの守谷しぐさ』（守谷市で独自に作成したもの）を活用した特別活動の充実を図ります。
自己評価	① 基本的生活習慣の基盤となる「あいさつ」は、各学校において児童生徒と教員が毎朝校門や昇降口で行うあいさつ運動、保護者や地域の方々・あいさつボランティア隊とのあいさつ運動週間等の取組を通して定着化が図れました。規範意識の高揚については、学校だけの取組では限界があり、家庭や地域との連携が必要です。 ② 小学校１・２年生に学習支援ティーチャーを配置したことで、きめ細かな支援が可能になり、基本的生活習慣や生活リズムの向上を図ることができました。 ③ 「守谷しぐさ推進委員会」において、内容の検討や実践の方向性等について協議を重ね、部分改訂した冊子を配付しました。各校で学級活動、全校集会、学校行事等で創意工夫ある実践を重ねることができました。
今後の課題と対応の方向性	① あいさつについては、守谷市が進める保幼小中高一貫教育「きらめきプロジェクト」に伴い、中学生が母校の小学校に出向いての小中合同のあいさつ運動が大変効果的でしたので、今後も全ての中学校区において小中合同のあいさつ運動を積極的に推進していきます。 ② 規範意識の高揚は、「市生徒指導連絡協議会及び豊かな心育成推進協議会」の中で共通認識を持ち取り組んでいきます。 ③ 学習支援ティーチャーの配置は、今後も質の高い人材の確保に努めていきます。

項 目	2 道徳授業の充実と豊かな人間性の育成
目標・取組概要	① 道徳の授業の改善を中心に心の教育の充実を図り、「豊かな人間性」の育成を図ります。 ② 「私たちの道徳」の趣旨を生かし、創意ある活用を進めます。 ③ 校長や外部指導者が道徳の授業に参加できるような体制づくりを進めます。 ④ 道徳の授業を保護者や地域に積極的に公開します。 ⑤ 児童生徒の発達段階に応じ、集団宿泊活動や自然体験活動（小学校）、職場体験活動（中学校）を重点的に推進し、社会性や豊かな人間性を育みます。
自己評価	道徳教育推進委員会では、各中学校区及び各校の道徳教育の充実を目指し、道徳の時間の授業改善に取り組んでいます。例えば、中学校区内の小学校と中学校教員が共同で授業を作り上げた提案授業を公開し、相互授業参観・協議を行うなど、指導方法のスキルアップ

	プを図っています。また、人権教育に関わる授業を学校区内の幼稚園、守谷高等学校で実施したり、学校公開日や授業参観日において保護者や地域の方々に道徳授業を積極的に公開したりするなど、学校と家庭、地域社会が連携した道徳教育の充実が図られてきています。また、学年便りの道徳コーナーを通して、授業の様子や子どもの考えなどを知らせたり、保護者も道徳授業に様々な形で参加していただいたりしながら、家庭と連携した心の教育を推進しています。
今後の課題と対応の方向性	道徳教育の充実については、道徳の教科化も見据え、引き続き各校の道徳教育推進委員が中心となって、創意工夫のある道徳授業を展開していきます。また、道徳の時間だけでなく、学校の教育活動全体を通じて豊かな心が育めるよう、多様な体験活動や中学校区ごとの交流活動の充実にも取り組みます。

項 目	3 「ゼロトレランス（生徒規律指導を厳格に行う教育方法）」の考えを取り入れた生徒指導体制の構築
目標・取組概要	① 教師と児童生徒の日常的な触れ合いを基盤に「ダメなことはダメ」の指導の徹底を図ります。 ② 集団生活における自己の役割と責任を持たせる指導の徹底を図ります。
自己評価	① いじめ問題は、「いじめは、いつでもどこでもどの子にも起こり得る」という危機感を持ち、未然防止・早期発見・適切な対応に向け、子どもたちの小さなサインを見逃さない日頃の観察やアンケートの強化、道徳の授業を中心とした心の教育の充実に努めました。 ② いじめが発生した際には、関係機関も含めチームを組んで対応し早期解消に努めました。いじめの認知件数は、小学校16件、中学校27件、計43件（うち、解消18件、継続支援中6件）で、前年度とほぼ同じ認知件数でした。 いじめ問題については、学校と教育委員会、関係機関との連携が重要です。早期解決に向け、平成27年4月に、「いじめ問題重大事態調査委員会」を条例により設置しました。 ③ 市内の小中学校及び高校が合同で「Moriya いじめ防止フォーラム」を開催し、守谷市いじめ防止スローガンを採択しました。
今後の課題と対応の方向性	① いじめ問題は、未然防止に向けた取組強化が必要です。いじめに関するアンケートの回数や対象（保護者）を増やし、より確かな実態把握に努めます。また、教職員からの呼びかけだけでなく、児童生徒が中心となり、いじめ撲滅のための集会やキャンペーンを行うことが重要だと考えています。 ② 過去には訴訟となる事案も発生したので、今後も対応を強化し

	ていきます。
--	--------

項 目	4 一人一人を大切にし、明るい社会を築いていこうとする人権教育の推進
目標・取組概要	① 人権感覚や人権意識を育み、一人一人を大切にした学級経営に努めます。 ② 交流活動やボランティア活動等、多様な体験活動を取り入れ、人権意識の高揚を図ります。 ③ 全教科・領域を通して、様々な人権課題を正しく理解する活動の充実を図ります。
自己評価	① 各校においては、「Moriya いじめ防止フォーラム」に向けて、いじめ防止のための集会活動やあいさつ運動、フォーラムの報告会を行いました。 ② 人権意識の啓発を図る作文や書道、俳句コンテスト等に積極的に参加し、成果を上げました。
今後の課題と対応の方向性	① 人権意識を高め、あいさつや言葉遣いを大切にして、人に対する思いやりの心を継続して取り組むとともに、教職員自らが言動に注意し、学校における人権教育を展開していきます。 ② 「Moriya いじめ防止フォーラム」の継続開催と、その内容について保護者への働き掛けを行っていきます。 ③ 人間関係づくりが本市の課題の一つです。ＱＵテスト（心理状態を把握するための民間テスト）等を活用して人間関係を把握し、心の居場所のある学年・学級経営を目指していきます。

項 目	5 教育相談体制の充実
目標・取組概要	① スクールカウンセラー（臨床心理士の資格を持ち、子どもの心の相談を行う者）、心の教室相談員、教育相談員、適応指導教室との連携を図り、子どもたちの心の問題に関わる様々な課題に対処することにより、自他ともに尊重し合う心を育みます。 ② 児童生徒だけでなく、保護者に向けた電話相談、面談等の充実を図ります。
自己評価	教育相談活動は、小学校には心の教室相談員を、中学校にはスクールカウンセラーを配置し、悩みを抱える児童生徒や保護者に対して個に応じた相談活動を充実させました。指導室所管の教育相談機関での相談件数は、小学校心の教室相談員 1, 0 0 3 件、中学校スクールカウンセラー 4 3 3 件、市適応指導教室 6 2 3 件、市教育相談室 2 1 4 件でした。 不登校児童生徒の不登校率は、小学校で 0. 7 9 %, 中学校で 2. 7 4 % となり、小学校は増加傾向にあります。増加傾向の背

	景には、児童生徒の情緒的混乱や家庭環境も含めた複合的な事由が挙げられます。各学校での家庭訪問や電話連絡などのきめ細やかな個別への対応とともに、小中の一貫した支援体制の確立が重要です。 ※ 不登校出現率の推移 単位：％ <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">区 分</th><th colspan="3">小学校</th><th colspan="3">中学校</th></tr> <tr> <th>H25</th><th>H26</th><th>H27</th><th>H25</th><th>H26</th><th>H27</th></tr> <tr> <td>県</td><td>0.35</td><td>0.37</td><td></td><td>2.73</td><td>2.79</td><td></td></tr> <tr> <td>守谷市</td><td>0.49</td><td>0.62</td><td>0.79</td><td>2.35</td><td>2.95</td><td>2.74</td></tr> </table>						区 分	小学校			中学校			H25	H26	H27	H25	H26	H27	県	0.35	0.37		2.73	2.79		守谷市	0.49	0.62	0.79	2.35	2.95	2.74
区 分	小学校			中学校																													
	H25	H26	H27	H25	H26	H27																											
県	0.35	0.37		2.73	2.79																												
守谷市	0.49	0.62	0.79	2.35	2.95	2.74																											
今後の課題と対応の方向性	平成28年度から、心の教室相談員事業、教育相談員事業、適応指導教室事業を統合化し、「守谷市総合教育支援センター」を立ち上げます。不登校児童生徒に対して、専門性のある相談員が、機動性・柔軟性のある支援を行います。併せて、学校・家庭との連携を図りながら、不登校の未然防止にも努めていきます。																																

＜外部の方々から頂いた意見＞

- 1 基本的行動様式の徹底指導と基本的生活習慣の確立について
 - ＊ 子どもたちの挨拶をする声が小さい。学校に協力しますので、積極的に挨拶運動に取り組んでほしい。
 - ＊ 「こんにちは」と、すれ違う子どもの挨拶がすがすがしい。地域で会ったときに挨拶ができる児童もいる。挨拶の習慣化が身に付いてきた。
 - ＊ 学校を訪問するたびに、元気な挨拶に感動している。大変素晴らしい。
- 2 道徳授業の充実と豊かな人間性の育成について
 - ＊ 道徳の授業で、子供たちがとてもよく発言している。
 - ＊ 2年生での東北被災地の宿泊学習は良い取組だと思う。話を聞いたり、ボランティア活動をしたりすることは、中学生の心に響くと思う。
 - ＊ 学校の桜やハナミズキの花、花壇やプランターの花など季節感のある花いっぱいの環境は、大変素晴らしい。生徒たちと一緒に花壇やプランター・鉢等で花を育てる心を今後も育ててほしい。
- 3 「ゼロトレランス（生徒規律指導を厳格に行う教育方法）」の考えを取り入れた生徒指導体制の構築
 - ＊ これだけの児童数の割には問題行動が少ない。
 - ＊ いじめの報道が絶えない昨今、先生方には生徒を見守り続けてほしい。優しい人間を育ていける学校であってほしい。家庭も関わり、情報の共有が良好にできる関係を続けてほしい。
 - ＊ NHK（Eテレ）「100万人の行動宣言」は、今後も継続実施して欲しい。全国に宣言することで、自分たちへの責任を強く感じてほしい。
- 4 一人一人を大切に、明るい社会を築いていこうとする人権教育の推進について
 - ＊ 子どもたちの素晴らしい挨拶の様子やいじめへの取組等について、もっと保護者や

地域にも発信してほしい。

＊ 地域との協力体制が薄れている中、〇〇まつりでは、地域との交流、体験活動の充実を図っているのは、大変、素晴らしい。今後も継続してほしい。

＊ 校内だけでなく、地域ですれ違った時にも、生徒は元気に挨拶してくれる。

5 教育相談体制の充実について

＊ 不登校児童への対応は難しいが、某小では3人が解消ということで素晴らしい。

＊ 児童の学校生活アンケートで「学校に来るのが楽しい」に「そう思う」と答えた児童は80%いるが、残りの20%にも個に応じた対応をすることが大切である。

＊ 不登校が3名解消したことは、学校の取組の成果である。一人一人不登校の要因が違うと思うが、今後も個に応じた支援を継続し、一人でも多くの生徒が学校に足が向くようにしてほしい。

〔3〕 ヘルス&フィジカルプラン（健康と体力をはぐくむ教育の推進）

子どもたちの体力低下が著しいと言われていることから、その解決のために、「食に関する指導」や「体力づくり」を進め、健やかな児童生徒を育てます。

また、子どもたちの安全は、教育活動を支える最重要課題であります。安全についての考え方を子どもたちに周知徹底するとともに、安全確保のための万全な体制をつくり、安全・安心な学校づくりを目指します。

項 目	1 体力の向上						
目標・取組 概要	① 創意工夫を凝らした日常的な体力づくり活動を推進します。 ② 子どもの体力や運動能力の実態を捉え、体育の授業や外遊びの工夫改善を図ります。 ③ 外部指導者の積極的導入や活動場所を確保し、中学生の部活動の活性化を図ります。						
自己評価	各学校では、体育の授業や業間休み、体育的行事、中学校での部活動を含めた教育活動の中で積極的に運動を取り入れ、体力の向上を図ってきました。体力テストA+Bの達成率は、小学校が52.5％で県平均より0.4ポイント下回り、中学校が62.8％で県平均より2.7ポイント上回っています。						
	※ 体力テストA+Bの達成率の推移 単位：％						
	区分	小学校			中学校		
		H25	H26	H27	H25	H26	H27
	県平均	51.8	53.3	52.9	60.5	59.7	60.1
守谷市	50.0	51.2	52.5	64.2	62.2	62.8	
今後の課題と対応の方向性	体力テストA+Bの達成率は、小学校では県平均を若干下回りましたが、中学校ではかなり上回る結果となりました。茨城県は平成27年度全国体力テストにおいて、小学校5年生では男女とも第2位、中学校2年生でも男女とも第2位であったことを考えると、本市の子ども達はかなり体力が付いていると思われます。今後も体育の授業だけでなく、全						

	教育活動の中で運動を取り入れる機会を設定し体力の向上を図っていきます。
--	-------------------------------------

項 目	2 健康教育の充実
目標・取組概要	① 薬物乱用防止教室の実施と喫煙防止教育の充実を図ります。 ② 指導計画に基づく組織的・計画的な性教育を実践します。
自己評価	学校医による小児生活習慣病予防教室，講師による薬物乱用防止教室，がん予防教室，性教育講演会，養護教諭による歯磨き指導等の発達段階に応じた健康教育を実践し，心身の健全な発達に対しての関心を高め，安全な行動や規律ある集団行動の体得につながりました。
今後の課題と対応の方向性	健康教育の充実は，引き続き関係機関（学校医，保健センター，警察等）と連携して健康に対する自己管理能力を高めていきます。

項 目	3 危機管理体制の確立と安全教育の実施
目標・取組概要	① 交通安全教育，防災教育，防犯教育の徹底を図ります。 ② 緊急時に役立つ防災・防犯マニュアルを見直し，実践化を図ります。 ③ 不審者侵入対策として，防犯カメラを有効に活用します。 ④ 通学路における要注意箇所・時間帯等を理解し，危険予測・回避能力の向上と徹底を図ります。
自己評価	① 各校の交通安全教育，防災教育，防犯教育は，保護者や地域，関係機関と連携した様々な取組が行われ，児童生徒の安全・防犯意識を高めることができました。 ② 各校にはメールマガジン配信のための環境が整っており，全校で活用を図っています。不審者出没，台風や降雪による登下校時刻の変更，避難訓練における引き渡しの情報等を瞬時に一斉に送信でき，危機管理体制の確立の上で大きな効果を上げています。 ③ 平成27年度も「防災の日」に合わせ，市と共催で市内小中学校全校が一斉に防災訓練を行いました。各小中学校では保護者への引渡し訓練も同時に行われ，多くの保護者が参加し関心を高めることができました。 ④ 各校とも青色防犯パトロール車を活用し，児童生徒の登下校時には青色灯を点灯しながら巡回活動を行っています。教員だけでなく，保護者や地域のボランティアの方々の参加により，登下校時の児童生徒の安全確保に大きく貢献していると思われます。
今後の課題と対応の方向性	市と共催で市内全小中学校と地域が連携して防災訓練を行い，成果を上げることができました。今後は，保育所や幼稚園の参加も呼びかけていきます。

項 目	4 食に関する指導の充実
目標・取組概要	① 食に関する計画や指導の充実を図り，児童生徒が正しい食事のあり方や望ましい食習慣を身に付けることができるようにします。 ② 給食活動等を通じて，自らの健康管理ができるようにするとともに，健康な体や豊かな心の育成を図ります。 ③ 飯盒炊飯実習体験を推進します。
自己評価	食に関する指導は，栄養教諭を講師に招いての授業や給食訪問を行いました。その結果，食事のマナーや衛生面に着目する児童生徒が増えたり，栄養や食物についての知識や関心が高まったり，望ましい食習慣の定着を図ることができました。また，小学校5年生と中学校2年生に対しては飯盒炊飯実習体験を実施し，食の大切さを実感させることができました。
今後の課題と対応の方向性	栄養教諭の専門性を生かした食育の指導体制の充実を図っていきます。 食物アレルギーに関する対応は，重要課題の1つです。アレルギーをもつ児童生徒については，担任1人ではなく，複数の教員で対応するよう周知徹底を図ります。 学校における食育指導のみならず，家庭と連携した食育指導（朝ご飯の大切さ等）についても充実を図っていく必要があります。 また，家庭との連携により，食育以外の基本的な生活習慣をさらに見直す機会も作っていきます。

＜外部の方々から頂いた意見＞

1 体力の向上について

- ＊ スポーツテストの結果が，昨年と比べて数値が上がっている。今後もよく分析し，体力の向上を図る手立てを講じてほしい。
- ＊ 体力の向上が，アンケートや調査結果からよく分かって，継続してほしい。
- ＊ 体力を付けるための行事の充実や，持久走大会での走る距離の見直しをして欲しい。

2 健康教育の充実について

- ＊ 生活様式が多様化している昨今，睡眠時間や食生活を適切に維持していくのは困難であるが，継続した家庭への啓発を続けてほしい。やはり，基本的生活面に関しては，家庭での対応が主体となるべきである。
- ＊ 学校保健委員会の参加者をもっと呼びかけ，多くの保護者に参加させる必要がある。
- ＊ 竜巻緊急避難訓練は，時を捉えた有効な避難訓練である。

3 危機管理体制の確立と安全教育の実施について

- ＊ 生徒の安全を守るため，PTAでも「753運動」に力を入れていきたい。
- ＊ 道路での自転車の通行について，昨年度から一部改正があり，指導されているのですが，自転車で登校する生徒には，小学生と接触することなどないように今後も注意してほしい。

- * 交通安全指導と併せて、不審者への対応についても継続的に指導し、事件事故に遭わないようにしてほしい。

4 食に関する指導の充実について

- * 各学年で食育に関する学習が行われ、効果があると思う。来年度は食育のみではなく、基本的な生活習慣に関して様々な働きかけをしていてもらいたい。
- * 授業を参観し、食生活を再度見直したいと思った。
- * 食物アレルギーの対応については、今後も万全を期してほしい。

〔４〕 ニュージェネレーションプラン（新しい時代に対応した教育の推進）

21世紀を生きる子どもたちには、新しい時代に対応した教育が必要です。守谷市においては、子どもたちが自らの力で将来を切り開いていくために必要な外国語教育・情報教育・環境教育・キャリア教育の充実を図ります。

項 目	1 国際理解教育の充実と英語力の向上
目標・取組概要	① 「英語活動」「外国語活動」において、国際理解教育の更なる推進を図ります。 ② 「ALTと遊ぼう」の計画的実施と内容の充実を図ります。 ③ 外国の姉妹都市や市内における外国人との交流活動を推進します。
自己評価	国際理解教育と小学校の外国語活動及び中学校の外国語教育は、平成13年度から全校にALT（外国語指導助手）を配置し、授業だけでなく日常生活においてもALTを積極的に活用し、外国語に触れる体験的な活動の場面を多く設けるなど充実した活動が展開されています。毎月第2土曜日に実施している「ALTと遊ぼう」「ALTと話そう」には希望者が多く、関心の高さが伺えます。 また、中学生対象の「English in Action」を毎月第3土曜日に設定し、ALTとの会話を楽しむ中学生の姿が見られました。 平成27年度児童アンケートでは、「外国語（英語）活動は楽しいか」という質問に対して、95%の児童が、また「英語を話せるようになりたいか」という質問に対しては、96%の児童が肯定的な回答をしています。 平成27年度の保護者アンケートでも「ALTの全校配置はよいと思う」97%、「子どもの外国語への興味関心が高まった」83%、「外国語活動を参観したことがある」100%と、本市の取組について大変好意的です。
今後の課題と対応の方向性	本市では、13年前から全校にALTを配置し、小学1年生から週1時間の英語活動を実施してきた結果、国際理解力や外国語への興味関心が高まってきています。「話せる英語」を目指し、教育課程外の活動である「ALTと話そう」を中学生にまで拡大（English in Action）してきたので、今後はその充実に努めていきます。

項 目	2 外国語教育の小中連携と充実
目標・取組概要	① 中学校外国語教育へのスムーズな移行を図るためのガイドラインを作成します。 ② 中学校における外国語教育の充実を図ります。 ③ 英語への関心を高める「英語検定」を積極的に推奨します。
自己評価	外国語活動推進委員会を定期的に開催し、授業研究等を通して各学校の外国語担当者とALTとが意見交換を行い、指導方法の工夫改善、円滑な小中の接続を図っています。 平成27年度「中学校3学年時における英語検定3級以上の取得率」調査では、市全体で取得率44.3%となり、前年度を上回る結果となりました。全小学校にALT1人を配置し、小学1年生から週1時間の英語活動を実施してきた結果、英語に対する関心が高まり英検取得につながったものと考えます。 【英検取得率状況】 平成24年度：30.9% 平成25年度：35.5% 平成26年度：38.6% 小中一貫教育を推進していく中で、義務教育9年間の発達段階における目標やコミュニケーションモデル等を示した「守谷市小中一貫外国語教育指導計画」を作成し、実践しています。
今後の課題と対応の方向性	① 「守谷市小中一貫外国語教育指導計画」に基づき、英語活動及び外国語活動の推進等について、外国語活動推進委員を中心に研究していきます。 ② 中学校3学年時における英語検定3級以上の取得率は高いものの、学校間で差があるので啓発していきます。

項 目	3 情報教育の推進とコンピュータ活用能力の向上
目標・取組概要	① 小学校では、情報手段に触れ、慣れ親しみ、適切に活用する能力を育成します。 ② 中学校では、情報手段を適切に使い、自ら必要とする情報を選択し、目的や条件に応じて処理・加工し、自らの情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な能力を育成します。 ③ 情報活用操作能力や情報モラル向上のための指導を各教科等に位置付けます。 ④ ICT機器等の操作方法及び活用方法の研修会を計画的に実施します。
自己評価	① コンピュータ、電子黒板等のICT機器や、デジタル教科書やデジタルコンテンツ等を活用することにより、児童生徒の興味・関心を高めたり、学習内容のイメージを視覚的に捉えさせたりす

	ることができました。 ② タブレットが教職員数分配置されたことで、授業での利活用を図っています。 ③ 定期的に情報教育推進委員会を開催し、教育委員会と各学校との連携を強化しています。また、情報教育推進委員会では、各校の情報教育に係る優れた実践をまとめた「実践事例集」を作成しました。 ④ 夏季休業中にコンピュータ活用研修会を開催し、小中学校教員に対してタブレットを活用した研修を行いました。 ⑤ 小中一貫教育を推進していく中で、義務教育9年間の発達段階に応じて身に付けるべき情報スキルと情報モラルを示した「守谷市小中一貫情報教育指導計画」を作成し、各教科等で指導しています。
今後の課題と対応の方向性	① 教員のICT機器を使った指導力はかなり向上してきていますが、活用の仕方に教員間の差が生じていることも事実です。情報教育推進委員を中心にコンピュータ活用研修会や校内研修を行い、教員個々のICT指導力の向上に努めます。 ② 平成25年度に作成した「守谷市小中一貫情報教育指導計画」の内容を見直しましたので、今後はその積極的な活用について、情報教育推進委員を中心に推進していきます。 ③ 「ネットいじめ」も大きな課題の1つです。背景には、ゲーム機やスマホ等の性能を理解していない保護者が多いことが挙げられます。保護者に対してそれらの正しい認識を周知していくとともに、正しい使い方や危険性について親子一緒に理解させていく必要があります。

項 目	4 環境教育の推進
目標・取組概要	① 自然体験を通して、環境に対する豊かな感受性の育成を図ります。 ② 環境保全教育やエネルギー資源教育を通して、環境意識の高揚を図ります。 ③ 総合的な学習の時間を活用し、身近な環境問題への取組を行います。
自己評価	① 総合的な学習の時間や特別活動を通して、環境保全に関する興味関心を持ち、地区の空き缶拾いや河川敷クリーン作戦に参加するなど、実践活動力を身に付けました。 ② 愛宕中学校区においては、「野鳥の森少年団」が継続的に活動しています。
今後の課題と	環境教育では、各学校において工夫した取組を行い、成果を上

対応の方向性	げている学校があります。これらの取組を市全体に周知し、環境保全への意識を高揚させていきます。
--------	--

項 目	5 キャリア教育の推進
目標・取組概要	① 発達段階に応じた組織的、系統的なキャリア教育（児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てる教育）を推進します。 ② 働く意義を体感できる職場体験学習の充実を図ります。
自己評価	キャリア教育では、市内の中学2年生が職場体験学習を行い、望ましい勤労観や職業観を育むとともに、体験報告会を通して情報活用力・表現力を養うことができました。
今後の課題と対応の方向性	中学校2年生で実施している「職場体験学習」は、望ましい職業観や勤労観を育成するのに大いに役立っています。しかし、毎年各学校では事業所確保に大変苦勞しているため、商工会やライオンズクラブ等に働きかけをして確実な事業所の確保に努めます。

＜外部の方々から頂いた意見＞

1 国際理解教育の充実と英語力の向上について

- * 2020年東京オリンピックに向けて、外国語の話せる児童、コミュニケーション能力の高い児童を育てることが重要である。
- * 英語への親しみ、スキルアップを考えて、スーパーインプットや修学旅行での活動は、一歩英語圏の中に入り込んだ工夫である。小さいときから英語に親しむことのできる今の守谷の指導体制は、素晴らしいと思う。
- * ALTの授業を児童は、楽しみにしている。守谷市出身の高校生は、ヒアリングの能力が高いようだ。今後も聞き取りの力が付くような授業を心がけてほしい。

2 外国語教育の小中連携と充実について

- * 外国語活動研究部による提案授業を6年2組で実施したが、活発で意欲的なコミュニケーション活動を展開していることが素晴らしいとの評価を頂いた。
- * 授業の質が高く、英語教育に力を入れていることがよくわかる。
- * これからは英語力を高めていくことは大切である。特に話す力を高めてほしい。

3 情報教育の推進とコンピュータ活用能力の向上について

- * 授業を参観すると、どの教室でも電子黒板の活用が図られている。タブレットも普段から活用していることが分かった。全員分のタブレットがあるとよい。
- * 電子黒板は、写真とかがとても鮮明で黒板ではできない教材を映し、目で見て理解も深まっていると思う。
- * 保護者対象のケータイやスマホの使い方を知る機会を持つことは、良いことだ。家庭でのルールづくりを呼びかけてほしい。

4 環境教育 ・ 5 キャリア教育の推進について

- * 通学路の安全点検については、今後も迅速に改善してほしい。
- * 問題解決の活動を通して、実感を伴った理解を深める指導をさらに充実させてほしい。
- * ほとんどの生徒が高校に進学するが、何のために進学するのか、将来何をしたいのか

かを考えられるような指導を大切にしてほしい。女性騎手素晴らしいです。

〔5〕 パートナーシッププラン（開かれた学校づくりと学校・家庭・地域等の連携）

児童生徒にとって、学校・家庭・地域は大切な学びの空間です。それぞれの独自性を生かしながら連携していくことが望まれています。

学校は、積極的に情報を公開することで、信頼される学校づくりを進めるとともに、家庭・地域と連携し、みんなで子どもたちを育む教育のシステムづくりを推進します。

項 目	1 地域社会への授業公開と積極的情報発信
目標・取組概要	① 学校便りの発行や学校ホームページの充実を図ります。 ② コミュニティスペースを活用した地域に開かれた学校づくりの推進を図ります。
自己評価	① 家庭や地域社会への積極的な情報発信は、各学校のホームページが有効です。各学校で工夫が見られ、全ての学校でトップページの中心にその日のトピックスが写真入りで掲載され、ほぼ毎日更新されています。保護者はホームページにアクセスすることで、その日の学校の様子が分かるので高い評価を得ています。 ② メールマガジン配信システムが全校に整備されており、天候不順による登校時刻変更・不審者情報等の緊急性のある情報提供そのほか、引渡訓練の連絡など迅速な情報提供に大変役立っています。
今後の課題と対応の方向性	① 市全体として、ホームページによる家庭や地域社会への情報発信が充実し、素晴らしいものに仕上がってきています。アクセス数も多く、保護者の中には楽しみにしている方も少なくありません。更新回数やその内容に学校差が見られるので、管理職や情報教育推進委員会を中心に話し合い、工夫改善を図っていきます。 ② メールマガジンによる保護者への情報発信が定着してきており、大いに役立っています。今後も、配信する情報内容に留意していきます。

項 目	2 特色ある学校づくりの推進
目標・取組概要	① 地域社会人ボランティアを有効に活用し、授業の活性化を図ります。 ② ブックトークや授業での支援協力、校外活動での引率協力等、積極的にPTAや地域の人材の協力を図ります。
自己評価	① 外部人材の活用については、学校単位でスクールサポーターや学校支援ボランティアが組織され、登下校での安全指導や学校の環境整備をはじめ、授業のサポートや個別学習にも積極的に参加してもらい、効果が上がっています。 ② 地域の教育力を十分に活用するため、ゲストティーチャーを招

	聘する機会を多く設けることで、子どもの学習意欲が高まり職員自身の指導意識も高くなりました。同時に、地域の学校理解にもつながっています。
今後の課題と対応の方向性	① 地域に支えられる学校として、学校ボランティア、スクールサポーターの協力がより効果的に活用・運営できる組織づくりを促進します。 また、学習面でのボランティアやサポーターの活用について、個人情報の保護管理に留意していきます。 ② 学習ボランティアとの打合せ時間の確保と調整が課題となっており、ボランティアとの事前打合せカードを工夫し、改善に努めます。

項 目	3 サポートチーム（生徒指導連絡協議会）による生徒指導体制の確立
目標・取組概要	① 児童生徒の安全確保のためのパトロール活動や、あいさつ・声かけ運動を実施します。 ② 児童生徒を取り巻く今日的な問題について、情報の共有化と対応への共通実践化を図ります。
自己評価	平成27年6月23日に「生徒指導連絡協議会及び豊かな心育成推進協議会」を開催し、児童生徒を取り巻く今日的な問題について、情報の共有化と対応に係る協議を行いました。その際、生徒指導部会では「いじめ問題に係る現状と学校・家庭・地域・関係機関等との連携について」、豊かな心育成部会では「ボランティア活動の取組状況と学校・家庭・地域・関係機関等との連携について」というテーマで分科会を持ち、有意義な話し合いが行われました。
今後の課題と対応の方向性	「生徒指導連絡協議会及び豊かな心育成推進協議会」では、取手警察署の講話や、その後の分科会での学校と関係機関との情報交換が貴重な機会となっています。 しかし、年1回の開催ということもあり、その後の関係機関との連携の在り方が課題となっています。必要とされる機会にスムーズな連携が図れるよう努めていきます。

項 目	4 地域ボランティアとの連携による登下校時の児童生徒の安全確保体制の確立
目標・取組概要	① スクールミニパトの有効活用を図ります。 ② PTA、地域ボランティア、関係機関と連携し、情報交換やパトロール等の協力体制を図ります。 ③ 通学路の定期的な点検活動を行います。

	④ 地域の人々と協力し、地域安全マップを作成します。 ⑤ 「子どもを守る110番」との協力連携を図ります。
自己評価	① 地域やPTAの協力を得て、通学路の交通安全のための施策を各関係機関に要望し、成果を上げることができました。 ② 複数学年による集団下校を毎日実施しました。月1回の通学班長会議を設定し、通学班による登下校の安全に対する意識付けとリーダーの育成を図りました。
今後の課題と対応の方向性	① 通学路については、市、学校、警察及び関係機関と安全点検を行い、道路のカラー舗装、柵の設置や交通規制等の対策を講じています。 今後も市、学校、警察及び関係機関と連携した通学路の安全確保が必要となっています。 ② 平成27年度は、児童生徒の交通事故が23件（内、自転車運転中の事故が17件）発生しました。飛び出しや左右確認不足など児童生徒側の原因によるものが10件ありました。登下校中などの管理内での事故は6件で、前年度比で半減しました。 登下校だけではなく、帰宅後や休日の交通安全、安全だと思われる場所での危険性についても、引き続き機会あるごとに指導していきます。

項 目	5 「学校運営協力員会議」の充実と学校評価の活用
目標・取組概要	① 信頼される学校づくりを進めるため、保護者や地域住民の意見を積極的に取り入れます。 ② 保護者や児童生徒に対する学校アンケートを実施し、学校の課題を明確にして改善を図ります。
自己評価	学校運営協力員会議を定期的開催し、学校の取組の現状や課題についての意見や感想等を頂くことができました。また、学校評価の結果についても広い視野から助言を頂くことができ、学校改善に役立てることができました。
今後の課題と対応の方向性	学校運営協力員会議は、学校評価結果を受けて開催していますが、形骸化しないよう学校課題に対してより効果的で客観的な意見が出やすい会議の持ち方を工夫していきます。

項 目	6 保幼小中高一貫教育「きらめきプロジェクト」の推進
目標・取組概要	① 「守谷の子どもを育む」という視点を重視し、設置者にとらわれずに、「守谷型」の保幼小中高一貫教育を目指します。 ② 守谷市保幼小中高一貫教育推進委員会、保幼小連絡協議会、各中学校区推進会議、中高連絡会等を計画的に開催し、一貫教育を推進します。

	③ 小中一貫教育を推進するために、小中教員間交流の充実を図ります。 ④ 遊びから学びへのつながりを円滑にするために、保幼小接続の充実を図ります。
自己評価	① 「世界で輝く人づくり」をテーマに、「確かな学力、豊かな心、健やかな体を育み、将来の夢に向かって努力できる児童生徒の育成」を目標とした守谷市保幼小中高一貫教育「きらめきプロジェクト」を推進しています。 4つの中学校区ごとに特色ある取組を行いながら、最終的には社会に貢献できる人材育成を目指します。各中学校区でアイデアを出しながら児童生徒及び教職員の交流を中心に様々な取組を行い、大きな成果が得られています。 特に、平成26年度に守谷中学校区で行われた「交流教室」を全中学校に拡大し、学区内の小学6年生を中学校に集めることで、小中学校教師による乗り入れ授業や小中学校の児童生徒による合同学習等の有意義な活動を行うことができました。 ② 8月3日と3月25日に全職員対象の全体研修会，学期1回の推進委員会，月1回の中学校区部会，不定期に企画部会や幹事会等の一貫教育を推進していく中で，より効果的に進められるよう様々な会議を開催し，全学校，全教職員が一丸となって推進できる体制を整えました。 ③ 全ての学校，児童生徒に共通して行う必要性がある学習目標とスキル・生活目標とスキルを義務教育9年間の発達段階で身に付けるべく方向性を示した「学びのプラン」，家庭学習のあり方を示した「家庭学習のてびき」，9年間の発達段階における目標やコミュニケーションモデル等を示した「守谷市小中一貫外国語教育指導計画」，9年間の発達段階に応じて身に付けるべき情報スキルと情報モラルを示した「守谷市小中一貫情報教育指導計画」の有効活用について，共通理解を図りました。特に，「学びのプラン」の「学習スキル」については，学習指導案との関連付けを図り，各教科等の指導目標の達成にも成果を収めることができました。 ④ 中学校区ごとに指導の重点となる内容項目を設定し，9年間の系統性のある道徳教育を目指すための「守谷小中一貫道徳教育計画」を作成しました。 ⑤ 保幼小の連携は，平成27年12月10日にみずき野幼稚園で「保・幼・小連絡協議会」が開催されました。「学びのプラン」の共有がテーマであり，公私の垣根を越え，子ども達の成長に向けたより良い支援体制について共通理解が図られ，保幼小接続の強化が図られました。

今後の課題と 対応の方向性	① 保幼小中高一貫教育「きらめきプロジェクト」がスタートし3年が経過し、「学びのプラン」,「家庭学習のてびき」,「守谷市小中一貫外国語教育指導計画」,「守谷市小中一貫情報教育指導計画」,「守谷市小中一貫道德教育指導計画」の有効活用やその内容については検証するとともに、見直しを図る必要があります。 ② 児童生徒、教職員の交流については、効率化を図るとともに、全中学校区で「交流教室」や乗り入れ授業を取り入れていきます。また今後は、イベント的な乗り入れ授業ではなく、教師の指導力の向上や児童生徒の学力向上につながる協働的な授業づくりを進めていきます。 ③ 小中一貫教育の核となる「学びのプラン」については、学習指導案に位置付けることで、その指導の徹底を図ります。 ④ 保幼との接続については、交流活動の充実とともに、「学びのプラン」(生活スキル)の内容を保幼と小との円滑な接続に生かすようにします。
--------------------------	--

＜外部の方々から頂いた意見＞

1 地域社会への授業公開と積極的な情報発信について

- * 子供の様子が分かり、話題になるので学級通信を多く出してほしい。
- * ホームページは、朝早くや休日まで更新していて素晴らしい。生徒の様子がよく分かるので助かっている。今後も継続していただきたい。
- * フリー授業参観では、気軽に参観できるような工夫が必要だと思う。例えば、学校や学年行事・PTA活動日と一緒にいこうとか、学校に足を運びやすいようにする必要があると思う。

2 特色ある学校づくりの推進について

- * 来年も守谷音頭の指導をするので活用してほしい。
- * 親父の会を昨年度発足したが、お父さんたちは大変積極的である。「次は何をやるの?」と会長にもよく声をかける。

- * 地域の方々と学校との協力体制ができている。更に、地域の人を呼び込んでほしい。

3 サポートチームによる生徒指導体制の確立及・4 地域ボランティアとの連携による登下校時の児童生徒の安全体制の確立について

- * ボランティアと保護者の見守りが継続して、交通事故防止に努めてほしい。
- * 子供たちが直接、お礼の手紙を持ってきてくれて、子供たちの顔と様子も分かった。あいさつに来てくださり感謝している。〔110番の家協力員〕
- * 水害発生時に避難所となり、改めて「地域の中の学校」であると感じた。生徒が避難されている方と優しく接していたことが印象的である。これからも、学校—家庭—地域が連携した環境を作ってほしい。それに向けて、できる限り協力していきたい。

5 「学校運営協力員会議」の充実と学校評価の活用について

- * 先生方は熱心に指導してくださっているので、ストレスを抱えているのではないかな。

保護者はその辛さをどの程度理解しているのか。このことを保護者の皆様が理解していただければ学校に対する見方が変わるのではないか。

* 親は意外と子どものことを知らないことが多いので、悪いことだけではなく、いいことも親に伝え、家庭でも子どもを褒めていくということを充実させ、子どもの自信形成や学校と家庭のコミュニケーションの活性化を図るとよい。

* 学校の主体性を発揮して、校種間の積極的な連携を図ってほしい。

6 保幼小中高一貫教育「きらめきプロジェクト」の推進について

* 守谷市は小中一貫教育が充実しているので、地元の中学校へ進学する子が多くなっている。高校進学者も県立志向が多くて良い。

* 入学式前に新入生の顔と名前を覚えるということは、期待と大きな不安をもって入学してくる生徒にとって、嬉しいのと同時に安堵感を与える素晴らしい取組だと思う。続けてほしい。

* 役に立てて良かった。陸上競技会では良い結果を期待している。〔守谷高校生徒〕